



子育て木馬

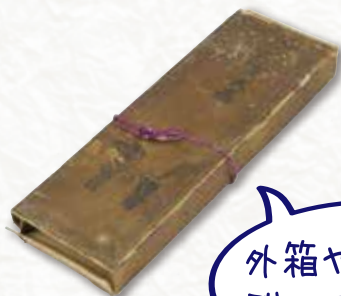
KOSODATEKINMA

担当 小林美夏



手のひらサイズの
縁起もの！

- 寸 法：幅1.0cm×
奥行2.5cm×
高さ3.3cm
- 材 質：木
- 製作地：福島県



外箱や由来書も
残っています！



「子育て木馬」とは？

この子育て木馬は、福島県三春町の郷土玩具である「三春駒」のひとつと考えられます。「三春駒」という名称で売り出されるのは、大正時代からになりますが、東北学院大学博物館に所蔵されているものは、1840(天保11)年にまで遡るとも古い型になります。

三春駒のルーツ

795(延暦14)年に、坂上田村麻呂が蝦夷を征討する際に大滝山の石窟に住む太多鬼丸という夷賊を相手に苦戦していました。すると、百頭の馬が駆け込んで来たらしく、それらの鞍馬に助けられて太多鬼丸に勝利することができたのです。この勝利に関わった馬たちというのが、京都清水寺の戦勝祈願で彫った仏像の余った木で彫った木馬の化身でした。この木馬の内一体が福島県福島市(旧高梨村)に残され、それを模倣して木馬を作り、その木馬を子どもに与えると子どもは健やかに育ち、子どものいない家では子宝を授かるようになった、といわれています。

安産祈願と倍返し！

三春駒(子育て木馬)は、以前は寺社に奉納したり、神棚に飾ったり、小さなものを袋に入れて身につけるといってしていたようです。また、馬の出産に関しては馬が出産する直前に馬頭観音などに供えてある木馬を借りてきて厩に飾り、出産後に二つにしてその木馬を返すという習俗もありました。これに似た願掛けの方法として岩手県花巻市の藁馬細工である忍駒しのびこまがあります。これもまた、神社や寺院に奉納されている木馬などを借りてきて、成就した際には二つにして返すというものです。

引用・参考

・外山徹 1999 「福島県東部地方・岐阜県高山市の伝統工芸品に関する実態調査報告-大堀相馬焼・三春駒・三春張子/飛騨春慶・渋草焼-」『明治大学博物館研究報告』(4) 明治大学博物館事務局